

伊勢湾台風60年企画展「いま、伝えたい記憶」 8月1日(木)～9月29日(日) 歴史民俗資料館ほか



昭和34年9月26日、この地方を襲った伊勢湾台風は、全国で5千人以上、旧弥富町、十四山村で358人の尊い命を奪い、農業や特産の金魚養殖などに甚大な被害をもたらしました。伊勢湾台風から60年の節目にあたる今年、歴史民俗資料館では、台風を体験された方20名以上から聞き取り調査を行い、被害の様子や復興の写真などとともに紹介する企画展を開催しました。期間中、約1500名の来館者がありました。

また、8月25日には「語り継ぐ伊勢湾台風」と題して、市内バスツアーと体験者の話を聞く会を開催、台風を体験したガイドボランティアの案内で、市内に残る慰霊碑や特に被害の大きかった鍋田干拓などを巡りました。



桜・日の出学区防災訓練 9月1日(日) 総合社会教育センター

午前8時のサイレン吹鳴後、各地区から総合社会教育センターへ徒歩での避難が始まりました。

約700名の参加者が4班に分かれ「心肺蘇生訓練」、「安否確認訓練」、「土のう積み訓練」、「ボート訓練・水難救助訓練」を行いました。



市民プール前には海部南部消防署の水陸両用車や自衛隊車両などが展示され、ドローンによる空中撮影も行われました。

参加者からは「ボート訓練、水難救助訓練など初めての体験で大変勉強になった」などの意見が聞かれました。

